

個別目標 6－1 「いつでも学べる場と機会を充実する」

計画の体系	健康領域	基本目標 6	個別目標 6－1	成果を計る主な指標
	社会の健康	豊かな心を育むまち	いつでも学べる場と機会を充実する	
			6-1-1 生涯学習に取り組む人が増えている	
			6-1-2 読書をする人が増えている	
			個別目標 6－2	
			地域のスポーツ活動を推進する	
			個別目標 6－3	
			大和の文化を守り育てる	

めざす成果	成果を計る指標	前期基本計画期間					後期基本計画期間				
		2009 (H21) 実績値	2010 (H22) 実績値	2011 (H23) 実績値	2012 (H24) 実績値	2013 (H25) 実績値	2014 (H26) 実績値	2015 (H27) 実績値	2016 (H28) 実績値	2018 (H28) 中間目標値	2018 (H30) 最終目標値
6-1-1 生涯学習に取り組む 人が増えている	81 市民1人あたりの学習センター年間利用回数	4.05回	4.25回	4.21回	4.11回	3.85回	3.79回	3.90回	3.34回	4.30回	4.58回
	82 ボランティア講師登録者数	231人	245人	199人	183人	206人					
6-1-2 読書をする人が増えて いる	83 団体企画提案の地域学習交流事業・市共催事業数					105件	88件	107件	103件	123件	133件
	84 市民1人あたりの年間図書貸出冊数	4.33冊	4.62冊	4.52冊	4.60冊	4.55冊	4.57冊	4.68冊	4.64冊	5.15冊	5.87冊
	図書館や保育所などのおはなし会の延べ参加者数					2,119人	1,994人	1,850人	1,989人	2,340人	2,580人

■平成 2 7 年度 施策評価 提言

前回の評価結果（平成 21～23 年度分）

成果を計る主な指標の「市民一人あたりの学習センター年間利用者数」及び「市民一人あたりの年間図書貸出冊数」については、計画策定時に比べ、いずれも実績値が上昇しています。これらは、学習センター施設の整備、改修によって利用者の利便性の向上を図ったことや、図書館の蔵書数を増やすなど、市民が必要とする事業が実施されてきたことによると考えられます。また一方では、学習センター、図書館それぞれの利用者に固定化の傾向がないか懸念されることから、今後は、できるだけ多くの人々に利用機会を提供するため、隠れたニーズを掘り起こすなど、新たな視点による事業展開も必要と考えます。特に、大和駅東側第 4 地区に予定している公益施設の建設により、生涯学習に取り組みやすい状況をより多くの市民に提供していくことが重要と考えます。なお、経済状況が厳しい中では、就労に繋がるような実用性の高い講座の開設、例えばボランティア講師による英会話の学習機会を設けるなどを検討することも必要と考えます。

追加の評価（平成 24～25 年度分）

市内に 5 館ある学習センターについて、計画策定当初から、成果を計る主な指標の「市民一人当たりの年間利用回数」は増加していましたが、平成 23 年度以降は減少に転じており、より多くの人に利用されるよう取り組みを一層充実させる必要があります。

成果を計る主な指標の「市民一人あたりの年間図書貸出冊数」が前回の評価時から上昇し、平成 25 年度の最終目標値を上回っています。毎月 23 日を家読（うちどく）の日と定め、家庭における読書を推進するなど、こども読書力向上プランに基づく様々な取り組みを展開したほか、市内公共施設等へ設置している図書返却ポストの増設をはじめとする利用環境の向上に取り組んだことが、効果を現わしているものと評価することができます。

今後の施策展開に向けて

生涯学習に取り組む人を増やしていくためには、市民ニーズを的確に把握しながら学習センターにおいて魅力ある講座等の開催を促すなど、幅広く、気軽に利用できる環境を確保していくことが求められます。また、大学等との連携や交流を図ることで、新しい取り組みの創出や若い人の参画などが期待できます。

豊かな心を育むうえでは、子どもから大人まで、連続して読書に親しむことが期待されます。市立小中学校では、図書館リニューアルや司書の全校配置など、読書活動の推進が図られていますが、家読（うちどく）の推進には学校も大きな役割を果たすと考えられるため、図書館と学校による連携を一層強化していくことが求められます。また、図書館の蔵書を充実していくにあたっては、思春期・青年期の子どもたちが読むことによって発達に資する、いわゆる「YA（ヤングアダルト）」図書についてもコーナーの設置を検討してください。

生涯学習センター及び図書館については、大和駅東側第 4 地区市街地再開発事業によって、文化創造拠点へ新築移転することになりますが、市民にとって魅力的で「いつでも学べる場と機会」を提供できる施設となるよう、運用面の充実に取り組んでください。

■平成 2 8 年度 施策の進行管理に対する提言

（平成27年度分）

○めざす成果 6－1－1 「生涯学習に取り組む人が増えている」について

- 学校の音楽室や美術室などを貸し出す特別教室開放事業は、生涯学習の場を確保するために必要な取り組みと考えます。特別教室開放を有効に活用していくために、地域ごとに利用ニーズ等を把握するとともに、地域差がある場合には、それぞれに応じた利用しやすい環境の整備に努めてください。なお、特別教室貸し出しにあたっては、子どもたちの創作活動等の機会が失われることのないよう留意してください。

○めざす成果 6－1－2 「読書をする人が増えている」について

- 大和市の将来都市像である健康創造都市やまを支える施設として、大和市文化創造拠点シリウス 4 階に整備された健康都市図書館においては、健康情報を積極的に発信することと併せ、例えば、姿勢が良くなる椅子を設置するなど、図書館にいただけで健康になれるような整備を進めることについても検討してください。
- 市民の読書活動の促進を図るうえでは、例えば、市内を循環する「移動図書館」など、身近な場所で本を借りられる環境を整えることも重要であると考えます。
- 大和市文化創造拠点シリウス内の図書館に設置されたデジタル地球儀は、読書の導入となるような好奇心を掻き立てる有効な機器であると考えます。こうした機器をうまく利活用することで、より一層の読書活動につなげていってください。
- 図書の有料宅配サービスについては、利用者へのきめ細かいサービスの一つとして有効であるため、より一層の PR に取り組んでください。
- 図書ボランティア養成講座による効果を把握するため、受講者がその後、ボランティア活動に参加したかどうかを捉え、必要があればフォローアップなどにも取り組んでください。

■平成 2 9 年度 施策評価（二次）結果

（平成26～28年度分）

成果を計る主な指標の各中間目標値については、生涯学習センターと図書館の移転に伴う休館の影響等により、前年度に比べ低下したものが複数見られますが、文化創造拠点シリウスのオープンにより、行政の取り組みと市民の活動がこれまで以上に活性化し、生涯学習に取り組む人が一層増えていくことを期待します。

生涯学習関係団体について、メンバーの高齢化に伴う解散や縮小が進む中、学習センターなどの施設利用に際して行う手続きや、イベントの参加に向けて人手を割くことなどに対し、負担や困難を感じる声が聞こえ始めています。今後、さらに加速すると考えられる高齢化の流れなどを踏まえ、小規模なグループでも利用しやすい施設の提供や柔軟な運用を検討することも必要と考えます。

平成 2 8 年度に図書館利用登録者数一人当たりの貸出冊数が増加したことは評価できます。今後は、より多くの市民が図書館の利用登録を行うよう働きかけていくことで、読書をする人を効果的に増やしていくことができるものと考えます。また、中央林間地域において新しい図書館の開設が、高座渋谷のイコーザでは図書室の図書館化も予定されていることから、文化創造拠点シリウスの図書館と合わせて市民の読書環境は相当程度充実が図られます。こうした施設の充実を好機と捉え、今後は、これまで市の図書館を一度も訪れたことがない人などにも向けて、利用促進の取り組みを積極的に展開することが望まれます。

個別目標 6－2「地域のスポーツ活動を推進する」

健康領域

社会の健康

基本目標 6

豊かな心を育むまち

個別目標 6－1

いつでも学べる場と機会を充実する

個別目標 6－2

地域のスポーツ活動を推進する

6-2-1 地域のスポーツ活動を推進する

個別目標 6－3

大和の文化を守り育てる

計画の体系

成果を計る主な指標

めざす成果	成果を計る指標	前期基本計画期間					後期基本計画期間				
		2009(H21) 実績値	2010(H22) 実績値	2011(H23) 実績値	2012(H24) 実績値	2013(H25) 実績値	2014(H26) 実績値	2015(H27) 実績値	2016(H28) 実績値	2016(H28) 中間目標値	2018(H30) 最終目標値
6-2-1 スポーツを楽しむ人が 増えている	85 日常的にスポーツを楽しんでいる 市民の割合	—	—	36.1%	—	33.8%	—	—	34.3%	37.1%	37.5%
	86 市民1人あたりの公共スポーツ施 設年間利用回数	6.03回	5.70回	5.62回	5.79回	5.59回	5.88回	5.57回	5.71回	6.74回	6.85回
	87 総合型地域スポーツクラブの設置 数					0団体	0団体	2団体	3団体	1団体	2団体

■平成 2 7 年度 施策評価 提言

前回の評価結果（平成 21～23 年度分）

市民意識調査における「日常的にスポーツを楽しんでいる」市民の割合については、この3年の間に増加しています。市民のニーズが多様化し、健康志向が高まる中であって、団体スポーツだけでなく、個人スポーツの振興に向けた施設充実を図るとともに、効率的な施設利用について検討していく必要があると考えます。また、現在、市が女子サッカー支援をきっかけとして総合型地域スポーツクラブの創設に向けた取り組みを積極的に進めていることについては、スポーツに対する市民の関心を高めるものとして、今後の展開に期待します。

追加の評価（平成 24～25 年度分）、（平成 26 年度分）

大和シルフィードがチャレンジリーグへ昇格したことや、サポータークラブへの個人加入が 200 名に上っていることなどは、これまで本市が女子サッカーへの支援を積極的に行ってきた結果であるといえます。また、ホームタウンチーム制度の立ち上げは、大和市のスポーツ全体の活性化に発展していくことも考えられます。

スポーツセンターの体育会館の大規模改修等によりスポーツ施設の充実が図られており、全国的なスポーツ大会への活用も期待されます。

今後の施策展開に向けて

大和シルフィードがさらに市民に愛されるチームになっていくためには、地域でのボランティア活動や行政の事業への参加などを通して市民の認知度を高めるとともに、選手の強化に力を入れていく必要があります。また、女子サッカーの盛り上がりが、他のスポーツにも広がっていくよう、ホームタウンチーム制度や総合型地域スポーツクラブなどについて周知を図りながら、市民に対して施策の方向性を明確に示していくことも重要です。

日常的にスポーツを楽しんでいる市民の割合が下がっていることから、スポーツセンター等の実利用者数を把握し、原因を分析していくことが必要であると考えます。また、本市におけるスポーツ設備の充実が、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会などを1つの契機として、市内外の人に認知され、スポーツ全体の活性化につながっていくように、これまで以上に積極的な施策展開を進めていくことが求められます。

■平成 2 8 年度 施策の進行管理に対する提言

（平成27年度分）

■平成 2 9 年度 施策評価（二次）結果

（平成26～28年度分）

成果を計る主な指標「総合型地域スポーツクラブの設置数」については、中間目標値が1団体のところ、平成 2 8 年度の実績は3団体となっており、地域に根差したスポーツの活性化が図られていると評価できます。今後も、地域参加、地域貢献、地域還元の視点を大切にしながら、創設されたクラブの安定化や、クラブ数のさらなる増加を図るとともに、より多くの市民が気軽かつ手軽にスポーツに関わることができる機会の創出に取り組んでください。

個別目標 6-3「大和の文化を守り育てる」

健康領域

基本目標 6

社会的健康

豊かな心を育むまち

個別目標 6-1

いつでも学べる場と機会を充実する

個別目標 6-2

地域のスポーツ活動を推進する

個別目標 6-3

大和の文化を守り育てる

6-3-1 多様な文化や芸術を楽しむ人が増えている

6-3-2 郷土の文化がしっかりと引き継がれている

成果を計る主な指標

めざす成果	成果を計る指標	前期基本計画期間					後期基本計画期間				
		2009(H21)実績値	2010(H22)実績値	2011(H23)実績値	2012(H24)実績値	2013(H25)実績値	2014(H26)実績値	2015(H27)実績値	2016(H28)実績値	2016(H28)中間目標値	2018(H30)最終目標値
6-3-1 多様な文化や芸術を楽しむ人が増えている	88 文化や芸術活動が盛んに行われていると思う市民の割合	—	—	42.4%	—	39.5%	—	—	45.7%	52.4%	56.4%
	前期 文化芸術事業(市主催・共催)来場者数	2,536人	2,100人	2,857人	3,283人	3,247人					
	89 YAMATO ART100来場者数					65,092人	122,004人	110,392人	107,359人	110,000人	115,000人
	90 芸術文化ホール年間利用者数※						—	—	121,880人	180,000人	230,000人
6-3-2 郷土の文化がしっかりと引き継がれている	91 大和市の歴史や文化は、しっかりと継承されていると思う市民の割合	—	—	41.5%	—	39.2%	—	—	38.3%	42.5%	42.9%
	92 歴史文化施設の利用者数	81,085人	88,383人	67,621人	48,339人	41,405人	43,151人	43,346人	43,787人	50,300人	51,300人

■平成 2 7 年度 施策評価 提言

前回の評価結果（平成 21～23 年度分）

市民意識調査においては、「文化や芸術活動が盛んに行われている」と思う市民の割合が増加しているものの、半数に満たない状況にあります。さらに、文化芸術の振興に関する取り組みのうち、「文化芸術を鑑賞する機会や場の提供」を市に求める意見が、全体の約 3 割と最も多くなっています。これらは、本市における文化芸術施策に関する取り組みが市民の望むレベルに達しておらず、より質の高い芸術に触れることのできる機会が求められているものと考えられます。

文化芸術は、人々に楽しさや感動、精神的なやすらぎ、生きる喜びをもたらすものであり、活発な文化芸術活動は、市民がまちに対して愛着を感じる大きな要素であると考えられます。今後、大和駅東側第 4 地区に予定している公益施設については、質の高いコンテンツの提供を通して市民の豊かな心を育むとともに、費用対効果のバランスのとれた経営を行い、本市の新たな文化創造拠点となるよう努めてください。

また、これまで受け継がれてきた郷土の歴史や文化についても、有形文化財の保存、活用はもとより、無形文化財についても後世へ継承していくための後継者育成に行政が積極的に関与するなど、郷土の文化をしつかりと引き継いでいく必要があります。

追加の評価（平成 24～25 年度分）、（平成 26 年度分）

「文化や芸術活動が盛んに行われている」と思う市民の割合が、39.5%と最終目標値を達成した一方で、市主催・共催の文化芸術事業の来場者数は最終目標値を下回っています。市民意識調査の結果をみると、文化芸術に力を入れるべきと考える市民が、40 歳代以下で低くなっており、若い世代の文化芸術に対する関心を深め、イベントの来場につなげていけるような取り組みを進めることが求められているといえます。

本市では現在、保健福祉センターにホールがありますが、利用率が高く予約が困難な状況にあり、芸術文化ホールの開館によって、市民の利用希望に応えられるようになることを期待します。

文化財に関しては、「大和市の歴史や文化がしっかりと継承されている」と思う市民の割合は、最終目標値を達成しているものの、歴史文化施設の利用者数について、つる舞の里歴史資料館と下鶴間ふるさと館は 1 日平均 20 人程度と少なく、郷土民家園は平日と土日祝日で差があることから、文化の継承や PR の方法を検討していく必要があると考えます。

今後の施策展開に向けて

若い世代を文化芸術事業に呼び込むためには、一般公募展において、小中学生でも参加しやすい俳句部門への出品を学校に働きかけたり、幅広い世代で趣味として浸透している写真の部門で、「撮る」行動から「出品する」行動へ進めるような工夫をしたりと、応募方法などを検討していくことが大切です。また、市内には 8 つの駅があることから、鉄道事業者や民間企業と協力し、展開型の音楽フェスティバルやフォトコンテストを開催するなど、若者が魅力を感じられるようなイベントを企画することも効果的であると考えます。市民意識調査では、「文化芸術を鑑賞する機会の提供や文化芸術に関する情報の発信」に力を入れるべきと考える市民の割合が 3 割近くとなっており、既存事業である「やまとコミュニティ音楽館」以外にも、プロが演奏する質の高いイベントの開催を増やしていくことも重要であるといえます。

平成 28 年 11 月の芸術文化ホールの開館に向けては、オープニングイベントの実施にあたって文化芸術団体が効果的に参加できるよう、大和市文化芸術連合会の運用体制が早急に構築されることを期待します。

文化財に関しては、有形文化財だけでなく、無形民俗文化財についても将来に受け継いでいくために、市内の歴史文化施設を巡るツアーの周回ルートに福田神社や薬王院を加えるなど、あらゆる文化財に市民が関心をもてるような取り組みを検討していくことが必要であると考えます。

■平成 2 8 年度 施策の進行管理に対する提言

（平成27年度分）

■平成 2 9 年度 施策評価（二次）結果

（平成26～28年度分）

成果を計る主な指標「文化や芸術活動が盛んに行われていると思う市民の割合」に係る平成 2 8 年度の値については、前期基本計画の最終年度である平成 2 5 年度と比べて増加していますが、中間目標値には達していません。そうした状況の中、市民意識調査の結果からは、文化芸術に関する施策を重要と考える市民は、比較的に 5 0 歳代以上に多いことが明らかとなっており、若い世代に文化芸術へ関心を持ってもらう取り組みが必要な状況にあると言えます。若い世代への効果的なアプローチを検討するにあたっては、現代的なデザイン、機能、テナント等を有し、既に中高生をはじめとした多くの若者に利用されている文化創造拠点シリウスは強力なツールになり得ると考えます。この魅力的な施設を核としながら、若い世代も興味を持てるイベントの開催や、個人や少人数でも気軽に公演・出展できるような一般開放日の設定など、裾野を広げる施策を展開することで、文化芸術が地域に根差したものとなっていくことを期待します。

なお、これらの取組については、稼働率や利用者数など数値的な指標を設定し、結果を確認することは必要なことですが、事業の質や多様性を追求していく視点も大切です。指標見直しの際には、事業や取り組みに係る質と量の双方をバランス良く測ることができるよう、配慮する必要があると考えます。

また、成果を計る主な指標「大和市の歴史や文化は、しっかりと継承されていると思う市民の割合」が減少傾向にある中で、市民理解の醸成を図るためには、歴史、文化の継承に係る取り組みを着実に進めるとともに、市民に分かりやすい形で情報を発信することが必要と考えます。大和市の歴史や文化、政治、経済の要点をまとめた気軽に楽しめる資料等を作成し、学習センターをはじめとする公共施設はもちろん、民間事業者の協力を得て商業施設等で配布するなど、より多くの人に理解してもらえよう、周知方法の工夫に努めてください。

郷土文化の継承を図るためには、将来を担う子どもに対して伝えていくことが非常に重要ですが、そうした機会を設けるには、行政の文化部門と教育部門が連携しながら、学校行事などを実施することが効果的であると考えます。校外の文化施設などで課外活動を行う場合には、子どもの安全や時間の確保など、課題も少なくないとは思いますが、家庭の協力や参画なども得ながら、可能な限り、子どもが地域の文化に触れられる機会を設けるよう取り組んでください。

大和の芸術文化に関する様々な見どころを、1 日の行程にコンパクトに詰め込んだ「アートバスツアー」が好評を博しています。そうした取り組みに有形・無形の文化財も組み込むことなどを通じて、郷土文化の PR を積極的に行ってください。